大玉村歴史民俗資料館　「あだたらふるさとホール」

「マチピチュ村を創った野内与吉」コーナー完成記念

野内与吉の功績とペルーの文化

～ 野内与吉顕彰展示オープンを記念して ～

講師：稲 村 哲 也 氏

講師プロフィール

愛知県立大学名誉教授、元放送大学特任教授。

主要な研究分野は、文化人類学（牧畜文化比較研究など）及び博物館学。ペルーはじめ海外で100回以上の現地調査に従事

■略歴:1950年 静岡県駿東郡長泉町に生まれる。

1968年　東京大学理科Ⅱ類入学 1973-75年メキシコ留学・現地調査

1981年　野外民族博物館リトルワールド研究員、博物館設立に携わる

1987年　愛知県立大学講師、准教授、同教授。2013～2022年　放送大学教授、特任教授

■主な著書：『メキシコの民族と衣裳』（紫紅社 1983）『リャマとアルパカーアンデスの先住民社会と牧畜文化ー』（花伝社、1995）『博物館展示論』（放送大学教育振興会、2016、編著）『博物館概論』（放送大学教育振興会、2019、編著）『博物館情報・メディア論』（放送大学教育振興会、2018、共編著）

◆日　　時 ： 令和4年4月24日(日曜日)

開演 午後1時30分 開場 午後１時

◆場　　所 ： 大玉村農村環境改善センター 多目的ホール

◆定　　員 ： 100名(受講希望の方は、以下へお申し込みください)

◆入 場 料 ： 無 料

◆申し込み先 ： 大玉村教育委員会 生涯学習課 TEL.0243-48-3139

あだたらふるさとホール TEL.0243-48-2569

その他 当日発熱、咳などの症状のある方は、受講をご遠慮願います。

主 催 ：大玉村 大玉村教育委員会 共催：野内与吉顕彰会・大玉村国内外交流協会

マチュピチュ村を創った 野内与吉（のうちよきち）

年齢は誕生日前の満年齢を表示しています。

1873 日本とペルーの外交関係樹立

1894~1895 日清戦争

1895／0歳 明治28年

11月18日 玉井村（現大玉村）で野内与惣松とイセの次男として出生。
野内家は、4代にわたり村会議員を出しており、父与惣松も村会議員や消防組頭を務めた。

野内与吉の両親

1899 第1回ペルー移民、790名が佐倉丸で渡航

1904~1905 日露戦争

1906／10歳 明治39年

玉井尋常小学校を卒業

1910／14歳 明治43年

玉井高等小学校を卒業

1911 ハイラム・ビンガムがマチュピチュ遺跡を「再発見」

1914~1918 第一次世界大戦

1917／21歳 大正6年

21歳の時、契約移民としてペルーへ渡航。1月23日、「紀洋丸」で横浜港から出国。カヤオ港へ着き、サン・ニコラス農園（アシエンダ）に配耕される。
半年で農園を出て各地を放浪。ブラジル・アマゾンからボリビアを経て再びペルーに入る。ゴム集積地プエルト・マルドナードで衣料品店を開業。

1923／27歳 大正12年

プエルト・マルドナードでクリスチャン名（オスカル）を受ける。
プエルト・マルドナードで火災にあい、残ったタイプライターを売って、クスコ市に。

1923 関東大震災

1925／29歳 大正14年

この頃、ペルー国有クスコ・サンタ・アナ鉄道のクスコ・マチュピチュ間の工事が始まり、機関士になる。また、路線拡張工事に携わる。

1928／32歳 昭和3年

野内与吉と妻マリアと長男

マリア・ボルティージョ（当時18歳）とオリャンタイタンボで結ばれ、後に3男1女に恵まれる。
この頃、鉄道の仕事をやめ、奥地の製材所で働き、後に木材会社を設立する。

1929／33歳 昭和4年

クスコ・マチュピチュ間（約100キロ）の鉄道が完成。そこから、カカオ、カフェなどの産物の集積地キジャバンバまでの工事が開始。野内与吉は、マチュピチュ集落に定着する。
集落に湧き水をひいたり、温泉を見つけて入浴設備を作ったり、人々のために尽くし、皆から喜ばれる。

1929 世界大恐慌

1935／39歳 昭和10年

マチュピチュ集落で唯一のホテル（ホテル・ノウチ）を開業。3階建てで、1階は村の郵便局・交番として無償提供し、2階は村長室・裁判所、3階が客室とされ、村の中心として発展した。
この頃、川をせき止めてダムを作り、水力発電設備を作って、村に電気を引いて、住民に喜ばれる。

1937 日中戦争開始

1939／43歳 昭和14年

マチュピチュ集落の行政官に任命

1939 第二次世界大戦開始

1941／45歳 昭和16年

「マチュピチュ村」創設

1941 太平洋戦争開始。ペルー在住の主要日本人移民を拘束・北米収容所へ送還。

1944／48歳 昭和19年

マリア・ボルティージョと別れ、マリア・モラレスと再婚。後に、5人の子供に恵まれる。

1944 ペルーが対日宣戦布告

1945 終戦

1947／51歳 昭和22年

マチュピチュ村の川が氾濫して土砂崩れ被災、野内与吉が村人と共に地方政府に支援を要請

1948／52歳 昭和23年

マチュピチュ村復興のため、村長に任命

1952／56歳 昭和27年

クスコ・サンタ・アナ鉄道に再度勤務。後に、定年まで勤め、仕事を息子のセサル・ノウチ・モラレスに引き継ぐ。

1952 日秘国交再開（1942年に国交断絶）

1958／62歳 昭和33年

三笠宮殿下がマチュピチュ遺跡ご訪問の際に、長女オルガが花束を贈呈。この出来事が日本の新聞に載り、家族は、日本大使館を通じて与吉と連絡をとり、実家に呼ぶことになる。

1958 東大アンデス調査団のペルー派遣開始

1968／72歳 昭和43年

半世紀ぶりに帰国し、大玉村に帰郷。出迎えた兄弟たちに「電気は点いたか？」と聞いた、と報道される。

野内与吉と兄弟たち

1969／73歳 昭和44年

8月29日、ペルーにて家族に見守られながら永眠。